



# 月刊島民

中之島

Vol.102 2017 1/1

©iPadサイズ (L、横展開)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

ベスト・オブ・月刊島民  
開票結果速報




ナカノシマ大学  
「ローカルメディアの大研究」  
慈 憲一 若狭健作  
申し込み受付中!

たくさんの投票  
ありがとう  
ございました!

# 「刊島民」開票結果速報!

▶ までの島民の中から、好きなものを選んで採点・投票する企画を行った。  
▶ してみよう。文/大迫力(本誌)

## ①総合人気ランキング



**5位 99号**  
「生きた建築」の見方  
45点

「会社近くに歴史ある建築が残っているのを知り、散策するのが面白くなった」「島民を見てイケフェスに参加。今年一番に近い感動を味わった」



**4位 81号**  
中之島を描く  
47点

「大好きな作家、奈路さんの独特な作風が面白い」「中之島が描かれた絵そのものが素敵」「何気ない空間と思っていたが、アートになると斬新」



**3位 95号**  
すごいぞ!  
京阪電車2016/50点

「表紙を見て迷いなく手にとった号」「鉄道オタクの友達でできた気分になりました(笑)」  
「通勤の中で様々な車両を見て楽しい気持ちに」



**2位 92号**  
となりの五代友厚  
59点

「五代友厚の大ファン」「いつも前を通っている五代さんを、遠い人ではなく隣にいる人として特集している」「大阪の学習にはかかせない資料」



**1位 90号**  
山崎豊子をおるく  
72点

「小説の内容だけでなく、本人の生い立ちから作品のできた背景まで丹念に取材された跡が分かりました」「大阪の作家であったと再認識」

# I 投票のルールとランキング

## ■投票の概要

今回の投票は、月刊島民第100号となった2016年11月号が発行された11月1日から、約1ヶ月にわたって行われた。

ルールは、第1号から第100号までの中から好きな号を選び、各自10点の持ち点を1点単位で自由に採点して振り分けるといふ少々面倒なもの。投票の受け付けは、ウェブサイトの特設ページおよび大阪府立中之島図書館に設置した「投票所」によって行った。その他、定期購読者には投票用紙を郵送し、記入して返送してもらった。

その結果、合計176名の方からの投票を受け付けることができた。P6以降で紹介している方々をはじめ、編集部からの依頼によって協力してくれた人もいるが、ルールを考慮すればこの人数はかなりの多いと言えるだろう。



## ■投票者の属性

投票者の属性についてはそれほど極端な傾向はなかった。男女比はほぼ半分ずつ。ウェブサイトで年齢も記入してもらったが、一番多かったのは40歳代だった。

投票方法はやはりウェブサイト経由が70%と最も多いため、インターネットとの親和性などを考慮すると、今回の投票者の年齢層は実際の読者と比べるとやや低めに出ているのかもしれない。

## ②オールド島民人気ランキング

1位	14号	ダイビル・マニア!	37点
2位	20号	大阪万博メモリーズ	33点
3位	3号	いつの間にか、駅前だらけ	31点
4位	39号	北新地	31点
5位	4号	島の水辺は年中アツイ	25点
6位	11号	「もっと」橋の話をしよう	24点
7位	26号	オール・ザッツ京阪電車	21点
8位	44号	中之島ホテル史	19点
9位	24号	天神祭の歩き方	17点
10位	32号	中之島アースダイバー	16点

## ①総合人気ランキング(11位~20位)

11位	20号	大阪万博メモリーズ	33点
12位	86号	豪商、どうでしょう	32点
13位	3号	いつの間にか、駅前だらけ	31点
13位	39号	北新地	31点
13位	61号	古地図パラダイス	31点
13位	77号	生きた建築へ行きたい	31点
17位	57号	マキメと学ぶ近代建築	30点
18位	55号	歌ってください、中之島で	29点
19位	74号	講談・大坂の陣	27点
19位	89号	大阪・テレビのはじまり	27点

## ■投票人数

**176人**

## ■投票件数

**666件**

(うち有効投票  
166人/656件)

# 「あなたが選ぶベスト・オブ・月」

昨年11月から約1ヶ月にわたり、創刊100号を記念して、「あなたが選ぶベスト・オブ・月刊島民」と銘打って、今回はその結果を速報すると共に、月刊島民がどう読まれているのか、どのような期待を受けているのかを分析し



**10位 72号**  
手塚治虫が歩いた道  
35点

「従来の手塚本にはない視点の考察が秀逸」「紙面の充実ぶりに影響されて手塚先生の足跡を辿りたくなり、休日一人中ノ島を歩きました」



**9位 85号**  
中之島名所番付2015  
37点

「行ってみたいと思う名所がわかりやすく載っていてお気に入り」「橋や建築物が番付表になっていると興味をそそる。それが大阪気質?」



**8位 14号**  
ダイビル・マニア!  
37点

「網本武雄さんのイラストでの紹介が味わい深い」「初めて島民を強く意識。近代建築と中之島界隈の雰囲気が好き。人間のツボをつきまくり」



**7位 97号**  
中之島ミステリー  
研究会/39点

「ひとつの本について作者でも業界人でもないファンたちが語らうことがこんなにおもしろいとはという気持ちで、何度も読み返しました」



**6位 87号**  
生きた建築を見たい理由/43点

「建物の所有者・管理者の建物に対する思いを伺うことができました。現役で生きた建物として利用していることを、肌で感じられた号です」

## ■ ランキングの手法

初めに断っておくが、今回のランキングには創刊号の第1号と第100号を含んでいない。その理由としては、第1号なら「記念すべき1号、まさに出た!」や「やっぱり創刊号でしょう」、第100号なら「記念すべき100号。表紙がお洒落。おめでとございませう」など、内容よりも記念や祝儀的な意味合いでの投票が多かったため。月刊島民全体へのエールとして、お気持ちだけいただくことにする。なお、選んだ理由が内容とそぐわないものや不適切と思われたものは無効とした。

さて、ランキングに目を移すと、投票点数による人気ランキング(表①・②)ばかりに関心が集まる。だが、10点を自由に配分するというのが今回の投票のミソである。投票件数のバターンは1件から10件まであり、たくさんの人から投票を受けた号が必ずしも点数が高くなるわけではない。反対に総点数は低くても、1件あたりの点数は高い号もある。

そこで、5人以上から投票のあった号の点数を件数で割ったインパクト指数(表③)と、投票人数のみをカウントした興味指数(表④)も示した。前者は熱烈な読者の多さを示すランキングであり、後者は興味・関心を持った人の多さを示すランキングと考えられる。

ところで、全投票件数666件のうち約65%が第51号以降に集中していた。第50号と言えは2012年9月のこと。もう4年以上も前になる。読者の記憶に新しい号に票が集まりやすいのは当然だ。このため3種類のランキングすべてを第50号以前と以降に分けている。島民は創刊から足かけ10年目。そうした時間経過も踏まえながらご覧いただければ、より楽しめるはずだ。

### ④-b 興味指数(第51号~)

1位	90号 山崎豊子をおるく	20点
2位	99号 「生きた建築」の見方	19点
3位	95号 すごいぞ!京阪電車2016	17点
4位	92号 となりの五代友厚	16点
5位	61号 中之島古地図パラダイス	14点
	77号 生きた建築へ行きたい	14点
7位	72号 手塚治虫が歩いた道	13点
	85号 中之島名所番付2015	13点
	86号 豪商、どうでしょう	13点
	87号 生きた建築を見たい理由	13点
	91号 鳥瞰図の誘惑	13点

### ④-a 興味指数(~第50号)

1位	14号 ダイビル・マニア!	15点
	20号 大阪万博メモリーズ	15点
3位	39号 北新地	14点
4位	11号 「もっと」橋の話をしよう	12点
5位	24号 天神祭の歩き方	10点
	26号 京阪電車の100年	10点

### ③-a インパクト指数(~第50号)

1位	3号 いつの間にか、駅前だらけ	3.44
2位	44号 中之島ホテル史	3.16
3位	4号 島の水辺は年中アツい	2.88
4位	6号 その時、中之島が動いた	2.5
5位	14号 ダイビル・マニア!	2.47

### ③-b インパクト指数(第51号~)

1位	76号 町内会入ってる?	4.6
2位	98号 10周年!天満天神繁昌亭	4.2
3位	81号 中之島を描く	3.92
4位	92号 となりの五代友厚	3.69
5位	90号 山崎豊子をおるく	3.6

## II 投票結果の分析

### ① 総合人気ランキング

#### ■ 際立つ巨匠の存在感。

それではいよいよ投票結果の分析に入ろう。まずは単純に合計点数の順に並べた人気ランキングである。最も点数が高かったのは、第90号の山崎豊子特集だった。国民的作家の一人であり、『白い巨塔』を筆頭に中之島の登場する作品は多いが、意外と言えないでもない。島民が書店で多く配付されていることなども関係していそうだが、そこはやはり巨匠の存在感といったところか。

巨匠と言えば、2位につけた第92号の五代友厚や10位の手塚治虫（第72号）もそうだろう。7位の第97号ミステリー特集も、人気作家・有栖川有栖さん



#### 「先生はやはり死んでおられなかった！」 山崎豊子元秘書 野上孝子さん

点数の辛い『月刊島民』読者投票の第1位に輝いた！と連絡をいただいた時、得意満面の先生が現れた。幽霊？いえ、山崎先生は永遠に不滅です。昨年9月、『豊子忌』にちなんだナカノシマ大学には多くの受講生が来場し、元秘書の幸せをかみしめておりました。ありがとうございました。



#### 「受験者数アップ。五代効果様々です」 大阪商工会議所 堤 成光さん

大阪商工会議所は「なにわなんでも大阪検定」を主催しています。2009年のスタート以降、受験者が減少していましたが、今年のテーマを「大阪の恩人・五代友厚」としたところ、初めて受験者が増加。それも35%も！五代特集の第92号は参考書籍に指定させてもらっただけに、堂々の2位は嬉しいですね。



#### 「これからも中之島を盛り上げます！」 京阪電車 宣伝担当 元 英輝さん

私たちから見てもやまニアックでしたが、関心を寄せていただけて嬉しい限りです。当社は昨年「中之島駅ホーム酒場」を初開催し、島民をはじめ多数のメディアに取り上げていただきました。中之島の活性化に貢献できていれば幸いです。中之島線と島民は同い年。一緒に中之島を盛り上げたいですね！



#### 「第99号は力作でした」 建築家 高岡伸一さん

中之島の建築はやはり大きな魅力なのだとも再認識しました。イケフェス開催にあたっては、毎年全面的にバックアップしていただき、ありがとうございます。中でも第99号は本当に力作でした。今年もよろしくお願ひします。同じテーマでネタが続くのか、ちょっと心配ですが。



#### 「女性票の多さに一同ニンマリ」 ダイビル広報室 鈴木祐大さん

女性から支持を頂戴している理由…強いて言えば、ダイビル本館のクラシックな外観やお洒落なカフェやレストランなどで味わえるヨーロッパへのプチトリップ気分が女性の心をくすぐるのでしょうか。優雅なご婦人方をよく見かけるようになりました。もちろん当ビルは老若男女問わず大歓迎ですよ！！

■ **アイデアの大切さ。**  
新旧の中之島を描いた作品を取り上げた第81号が4位に入った。その理由として、昔の絵だけでなく、奈路道程さんと河田潤一さんの作品が良か

の色が強い。いずれもメジャーな存在であり、特に五代はNHKのドラマのヒットも追い風になった。とは言え、専門家を監修や書き手に加えるなど、深く掘り下げた内容への評価でもあるだろう。間口は広く、奥行きは深くというニーズが見て取れる。

#### ■ 人気を二分する建築と鉄道。

よく特集しているからと言えればそれまでだが、「生きた建築」や京阪電車の特集は順当に人気を集めた。特に生きた建築特集は、昨年と一昨年の2冊が5位と6位にランキングしており、合算すればテーマ的には実質上の1位である。

京阪電車特集も3位の第95号のほか、13位に第3号（31点）、42位に第50号（16点）が入った。9年も

#### ■ **すごいぞ、ダイビル。**

前述した通り、票は明らかに最近の号に偏っているわけだが、そんな中であって、第14号の旧ダイビル特集の8位という順位は大健闘というか驚異的すらある。

しかも、投票者のほとんどが女性だった。なにか女性の心をくすぐる魅力があるのだろうか。設計者の渡辺節はブレイボーイとしても有名だったというが…まあこれは関係ない。

一方、ベストテンには入らなかったが、男性票が多かったのが第61号の古地図特集（14位）。歴史好きと言えば男性というイメージがあるが、他の号ではそれほど男女差は見られない。古地図は男のロマンなのだろうか？

ったという声が多かった。奈路さんに関して言えば、この号に限らず表紙の好みで票を投じているケースが目立ち、その奈路さんの絵画作品が掲載されたことも人気につながったのだろう。

8位の第85号中之島名所番付は、何気ない風景やものごとを勝手にランキングするという手法がウケた。惜しくもベストテン入りは逃したが、第86号豪商特集(12位)もまた、豪商の栄枯盛衰を解説したイラストすごろくに評価が集まった。これらの結果は企画や誌面づくりにおけるアイデアの大切さを教えてくれる。

## ② オールド島民人気ランキング

総合ランキングとは別に、「オールド島民」とも言うべき第50号(2012年9月号)までのランキングを見てみると、また違った趣がある。こちらの2位は**第20号の大阪万博特集**。懐かしいという意見はもちろん、「自分の知らない万博の世界を味わうことができました」という若い世代の投票も多かった。今も語り継がれる大阪万博のインパクトとは、よほど強烈だったのだろう。だからと言って、「大阪でもう1回やろう」ということには結びつかないが。

5位の橋特集や6位の水辺特集など、古い号では水辺のあらましを伝えるものが散見される。このようにして中之島の魅力や特性を読者と共有しながら、少しずつ取り上げるテーマやエリアを広げていったのだ。ゆめゆめ「中之島だけではネタが続かなかったからでは？」などと言ってはいけない。

## ③ インパクト指数

投票点数を件数で割った値、すなわち平均すると何点になるかを比較することで、その号のインパクト

が見えてくる。

オールド部門では、第3号の京阪電車中之島線特集がダントツ。ここでも島民にとっての一大事であったことが裏付けられる結果となった。点数は伸びなかったものの、インパクトでは**第44号のホテル史**が2位に入った。中之島と言えばホテルというイメージはまだまだ根強いのだろう。4位の第6号は歴史の特集の先駆け。伝説の銅像インタビューが、インパクトにつながった。

50号以降では、なんと**第76号町内会特集**が脅威の値を叩き出した。実際に町内会に入っている人にとっては、よほど嬉しかったのか。また、第98号天満天神繁昌亭特集の4点台もすごい。どちらも投票人数はごく少数なのだが、それだけ印象深かったわけだ。雑誌真利に尽きるといえるものである。

## ④ 興味指数

点数はカウントせず、その号に投票した人数だけを数えたのが興味指数である。人気ランキングに近似的になってしまうが、いくつか面白い点もある。

**第39号北新地特集**は、他でも好位置にランクインしているが、ここでは3位に入った。理由は何と言っても表紙の女性だろう。思わず触れてみたくなるうなじの色香には、女性からの支持も多かった。

50号以降の上位の顔ぶれは人気ランキングとほぼ変わらない。注目したいのは13人からの投票を受けて同点7位に入った**第91号鳥瞰図特集**だ。点数では目立たないものの、鳥瞰図に興味を持つ人は多かった。第61号の古地図特集も5位に入っており、自由に眺めて楽しめる地図の人気は根強いことがわかる。ちなみに、1点ずつ10冊に投票した人が約6%いた点も指摘しておきたい。



91号  
鳥瞰図の誘惑

「見ていて想像が膨らんでくる」「スゴいですねえ、『大阪梅田鳥瞰図』完成まで2年半とは」「古地図マニアとしてうれしい企画」「大阪の鳥瞰図が好き」



39号  
北新地

「この色っぽい表紙」「京都ではなく北新地の和装婦人を描くにはこの髪型しかないと思いました」「毎朝、北新地を横目に通勤。おじさん達は魔法にかかりたいのね」



76号  
町内会入ってる？

「憧れの中の島に住んで、月刊島民に載る夢がなかったの。最高!」「普段活動している町内会を取り上げてくださいました。誌面へのまとも方がさすがプロと感心しました」



44号  
中之島ホテル史

「リーガロイヤルホテルを様々な観点から深掘り」「リーチャーはいつ行っても良いところ」「ハレの日のごちそう、高い敷居をまたげる日。非日常空間、別世界でした」



20号  
大阪万博メモリーズ

「小学生の時に家族で行った思い出がつかまっています」「自分の知らない万博の世界を味わうことができました。岡本太郎の色使いが素敵です!」「万博の年生まれなので」

## その道のプロが選んだのは？

キタの雑誌好きを唸らせる目利き。

### ジュンク堂書店大阪本店 中田真弥子さん

【山崎豊子をおるく(90号)：2点】は、なんとと言ってもテキストのみっしり感!!【中之島キネマ通り(53号)：2点】の高村薫さんのインタビューは大変素晴らしかったです。『黄金を抱いて翔べ』もいいけど、『神の火』『照柿』『李歐』に描かれている大阪もおすすめ。ふだん売り物の本ばかりを扱っているの、【社史を編む(49号)：2点】は、人様のアルバムをこっそりのぞくような面白さがありましたね。※その他【マキメと学ぶ近代建築(57号)：2点】【オダサク散策(63号)：1点】【もっと人生に中央公会堂を(17号)：1点】



京阪神を舞台に数々の雑誌を編集。

### 京阪神エルマガジン社 藤本和剛さん

【ザ・中之島ブルース(5号)：1点】初期島民の濃い感じが書き手や掲載店のチョイスに出ている。【すごいぞ! 懷徳堂(27号)：2点】阪大出身とはいえ懷徳堂のことは知る機会がなく、そんな折に渡されたラブレターのようにでした。【北新地(39号)：3点】まず表紙がいいですね。中沢先生の活き活きた表情も効いています。【キャンパスがあった頃(56号)：1点】阪大出身なものでパート2。「果たして自分がこのキャンパスに通っていたら」と妄想。【中之島古地図パラダイス(61号)：1点】古地図が多数収録されて見応えもありつつ、コラムやキャプション含めてとても理解しやすい。【薬の道修町の400年(64号)：1点】船場商人、とりわけ道修町の製業会社の筋筋なもので。【中之島を描く(81号)：1点】小出さんと佐伯さん。ちょっとダークな世界観が気になってました。



大阪の本を知り尽くす司書。

### 大阪市立中央図書館 金澤愛弥子さん

【浪花百景大研究(67号)：4点】あらためて見てやはり面白い『浪花百景』。吹き出しや、ディテールへのつっこみも楽しい。昨年12月より大阪市立図書館デジタルアーカイブでもご覧いただけるようになりました!【中之島古地図パラダイス(61号)：3点】当館の古地図も登場。冊子の中の写真で見ると現物より美しく見える不思議…。【手塚治虫が歩いた道(72号)：2点】手塚先生のプラネタリウムの色紙が印象的でした。梅田吸気塔も作品に登場していたのかと再確認しました。【となりの五代友厚(92号)：1点】いまや超人気者になった大阪の恩人・五代友厚をコンパクトにわかりやすく取り上げられていて、図書館でも大人気でした。



地元の面白さを発信するナダ原理主義者。

### naddist 慈憲一さん

日頃、神戸の灘区でいろいろな活動をしているので、その地域の面白さをうまく伝えていものに「あっぱれ!」の意味を込めて各2点を。ちょっとしたもかすたら中之島ネタに持つていくという強引さが笑える【大阪万博メモリーズ(20号)】、歌謡曲好きで街好きというニッチゾーン狙いの【歌ってください、中之島で(55号)】、ビルの街を上から眺めるとい上から目線な【屋上を向いて歩こう(73号)】、町名から街を読み解く妄想力が町名マニアの心をくすぐる【旧町名をたどる(48号)】、虫メガネで小ネタを拾う感じが楽しい【浪花百景大研究(67号)】。



### ■審査員長の講評

### 高島幸次さん

巻に溢れるフリーマガジンの宿命は「読み捨てられる」ことだと思い込んでいた。ところが、この投票結果からは、記憶だけに頼るのではなく、手元のバックナンバーを丹念に読み返す読者の姿が浮かび上がってきた。意外にも「保存されている」ようだ。さらに上位選出の特集を閲覧すると、記事の現場から現場へ「持ち歩き」されているようだ。読み・持ち歩き・保存される『月刊島民』はフリーマガジンを超えている!

## 月刊島民ゆかりの人々。

「中之島ふらふら青春記」を連載。

### 作家・医師 久坂部 羊さん

創刊100号、おめでとございます。どの号も愛読、感心、印象深いので、甲乙つけがたいのですが。【出た!ワシらのシマが動き出す(1号)：2点】は、100号まで続く原形を創ったこと。【書を持って島へ出よう!(7号)：2点】は私事ながら「島民」と私の出会ったこと。【キャンパスがあった頃(56号)：2点】は私事ながら懐かしい学生時代を思い出させてくれたこと。【川の話と生きものたち(59号)：2点】と【山崎豊子をおるく(90号)：2点】は、私事ながら私の好きな生き物&山崎豊子特集なので選びました。点数は甲乙つけがたいので各2点。本音はすべての号に各10点です。



古地図を読み解くスペシャリスト。

### 作家 本渡 章さん

【川の話と生きものたち(59号)：3点】「うなぎ釣りに挑戦」のレポートで、ほんとに釣れたのは衝撃でした。【豪商、どうでしょう(86号)：3点】「大坂豪商すごろく」が秀逸。幕末までの生き残りレースになぞらえたのが面白く、拡大よりも「存続すること」を望んだ豪商の生き方の核心に触れていました。【中之島100の入口(100号)：2点】いろいろなテーマを俯瞰して見渡せる。異種テーマ横断型のアイデアがうかぶかも。【中之島古地図パラダイス(61号)：2点】執筆した号なので、どこがいいのか自分ではよくわかりません。見て楽しい古地図が載っただけでも貴重。



今月のナカノシマ大学の会場はこちら。

### 大阪国際会議場 栗田隆弘さん

自分のソーシャルスタイルがアナリティカルなもので、島民を読んで「ああ、そうだったのか」と日頃の疑問が解消できた号が印象深いようです。【中之島古地図パラダイス(61号)：4点】古地図を眺めているとそのたびに発見がありますので。【天神祭の歩き方(24号)：3点】天神祭の全体像が初めてわかったので。【講談大坂の陣(74号)：3点】『難波戦記』の「福島天神付近の戦い」なんて初耳だったので。



**松野** 中之島まちみらい協議会（以下、まち協）は中之島の発展・活性化を目指し、区内の地権者など29の企業・団体からなる協議会です。会合では、まちづくりとプロモーションの二つの分科会に分かれ、ハード/ソフトの両面から中之島を盛り上げるための方策を話し合っています。

**迫** 昨年の6月に「都市再生安全確保計画」を策定したこともあり、最近は大震災、減災計画など、災害時にどのように連携するのも大きなテーマですね。  
**寺田** 普段の活動の中では、地域の方との直接的な接点は少ないのですが、他団体と連携し、打ち水や橋洗いなどのイベントに参加し、地域の方々や中之島のワーカーとコミュニケーションをとることもあります。

### オフィスワーカーとは違う視点。

**寺田** 私は直感的に興味深いと感じたものを挙げてみました。まずは第85号の中之島名所番付。新旧いろいろありますが、一番気になったのは日銀前の

- 寺田さんの採点  
34号「中之島モダン美術倶楽部」3点  
59号「川の話と生きものたち」2点  
85号「中之島名所番付2015」3点  
90号「山崎豊子をおるく」1点  
96号「中之島インバウンド」1点

- 迫さんの採点（各1点）  
11号「もつと橋の話しよう」  
32号「中之島アースダイバー」  
41号「中之島の現場から」  
48号「旧町名をたどる」  
54号「蔵屋敷の常識」  
59号「川の話と生きものたち」  
67号「浪花百景大研究」  
71号「潜入!中之島24時」  
83号「夢の中之島」  
91号「鳥瞰図の誘惑」

- 松野さんの採点  
81号「中之島を描く」7点  
89号「大阪・テレビのはじまり」3点

**寺田** あとは第96号  
「こんな魚や鳥がいるんだな」と意外だったんです。



## 中之島 まちみらい協議会が選ぶ 「月刊島民」 わたしの お気に入り。

■参加して下さったみなさん(右から)  
**松野徹毅**さん(朝日新聞社)  
**迫 麻里**さん(竹中工務店)  
**寺田裕史**さん(関西電力)

ポスト！金色のポストで、雨風に打たれ一部変色しているところに歴史を感じます。2年前、この業務を担当する時に中之島を1周歩いてみたのですが、その時には見つけられず。知らない景色がまだまだあるんですね。続いて第34号の中之島モダン美術倶楽部。日本的な作品もあれば、海外のように見える作品もある。同じ景色なのにこま

「中之島インバウンド」。いろいろな国籍の方が、それぞれの過ごし方で中之島を満喫しているんだなと実感しました。  
**迫** 私はぜんぶ読み直して、面白かったものを挙げていたら10冊に収まらなくて…。  
**松野** え、100冊読んだの？  
**迫** はい。なんとか10冊に厳選しました。だから各号1点ずつ。建設会社と

中之島には公的な施設や大企業のオフィスが集まり、病院・ホテル・公園なども多く、ポテンシャルはとても高い。でも、ふだんはオフィスワーカーとしての視点でしか見られていないんですよね。私たちが気づかない部分にスポットを当ててくれるのが、月刊島民のいいところだと思います。

### 中之島から大阪らしい発信を。

**松野** 私のベストは第81号「中之島を描く」。何と言っても奈路さんと河田さんの絵が面白い。水辺空間って誰が見てもだいたい同じなんですけど、画家が見るとぜんぜん違いますよね。我々には見えない部分をすくい取ってくれている。今の中之島を描いているのも前向きでいい。こういう素晴らしいところを中之島のオフィスワーカーの方が見て、愛着を持ってほしい。

で別の顔として表現できる街はなかなかないと思うんです。そして第59号「川の話と生きものたち」。  
**迫** 私も好きです！「こんな魚や鳥がいるんだな」と意外だったんです。  
**寺田** あとは第96号

ましては、中之島の工事を取り上げた第41号は外せないし、第67号の『浪花百景』の研究も面白かった。錦絵と今の風景を比べる企画は、まち協の運営するウェブサイト「中之島スタイル」でもやってみたいですね。中でもイチ押しは第83号「夢の中之島」。実現しなかった建築や計画にも、一つ一つ思いが込められていたんですね。

# IV 「あなたが選ぶベスト・オブ・月刊島民」

26 オール・ザッツ京阪電車／2010年9月号／29位  
開業100周年の京阪電車を大特集。百年史はとて読み応えがあります。

27 すごいぞ!懐徳堂／2010年10月号／51位  
あまたの奇才を輩出した私塾。リベラルがハイレベルをもたらす典型。

28 中之島は宝島だ!／2010年11月号／81位  
取材を重ねるうちに知った、「あそこにこんな貴重なものが」を一挙公開。

29 中之島に光りを灯す人々／2010年12月号／70位  
冬の風物詩、「光のルネサンス」。今ではすっかり規模も大きくなりました。

30 写真と人の物語／2011年1月号／81位  
デジタル全盛でも、写真やカメラというメディアは人々を魅了して止まない。

31 天満橋サウンド／2011年2月号／92位  
小さな楽器工房が集まる「天満橋」の愉快な人々と素晴らしい街の歩み。

32 中之島アースダイバー／2011年3月号／39位  
中之島のビルの下に眠る江戸時代の蔵屋敷の遺構の数々をまさに「発掘」。

島民の場合、描いた絵がどうなるか、出来上がるまでわからないスリルがある。イラストとデザインの役割関係が特に心地よかった号。(奈)

33 ワールド中之島サテライト／2011年4月号／81位  
各国の文化協会や名誉大使館を取材。インバウンドなど知る由もない頃。

34 中之島モダン美術倶楽部／2011年5月号／51位  
橋爪節也先生の解説による大正～昭和初期の「描かれた中之島」傑作選。

35 中之島オンリーショップ／2011年6月号／85位  
文字通り、中之島にしかないショップ。今ではずいぶん増えている。

36 中之島から始まる旅／2011年7月号／77位  
熊野詣に三十石船、そしてもちろん京阪電車も中之島から始まる旅。

37 いきなり始める老松町／2011年8月号／70位  
堂々と中之島以外のエリアを取り上げた特集第一弾は、骨董と美術の街。

38 中之島から考える大阪経済入門／2011年9月号／85位  
日銀の紹介とアナリストによる経済展望。外国人観光客増をばっちり予言。

39 北新地／2011年10月号／13位  
誰もが気になる北新地。中沢新一先生も「上品な大阪」と評した。

40 「天下の台所」をみにゆく／2011年11月号／92位  
大阪市中央卸売市場のセリの様子を取材。撮影スタートは午前3時でした。

41 中之島の「現場」から／2011年12月号／68位  
新しいビルや古い建築ではなく、建設中の現場を取り上げるといふ野心作。

42 島民が語る2012年／2012年1月号／53位  
街の仕掛け人たちに、今年の抱負を聞いた新年らしいおめでたい内容。

43 ハカセの系譜／2012年2月号／47位  
実は大阪は江戸時代の町人科学者の系譜ができるほどの科学シティだった。

市立科学館の学芸員を「科学戦隊中之島イレブン」と名付け、それぞれにあだ名を勝手につけて紹介。怒られなかったのが不思議。(若)

44 中之島ホテル史／2012年3月号／32位  
中之島はホテルの島でもある。その歴史は明治時代までさかのぼる。

45 職人の職場を訪ねる／2012年4月号／92位  
ワーカーは多い中之島だが、ものづくりに関わる職人もたくさんいる。

46 本を読む、書店をめぐる／2012年5月号／63位  
店主の顔が見える小さな古本店はセレクトにも当然個性が表れやすい。

47 大阪の「ウェストゲート」を旅する／2012年6月号／92位  
川口・江之子島の歴史は、大阪の歴史の全体像を把握する上で欠かせない。

48 「旧町名」をたどる／2012年7月号／44位  
なんとも風情のある町名が40年ほど前まではたくさん残っていた。

49 社史を編む／2012年8月号／76位  
中之島図書館の協力を得て、読んで面白い見えて楽しい社史の世界を案内。

50 京阪電車を見よ!／2012年9月号／39位  
祝50号ということで京阪電車をまたまた特集。特史はやはり華やか。

1 出た!ワシらの島が動き出す／2008年8月／参考  
新しく生まれるもの、なくなるもの、中之島の変化の兆しを捉えた創刊号。

2 可愛くするな、シブくいけ!／2008年9月／77位  
中之島の深い魅力の背景とは? 建築や歴史や店からその理由に迫った。

3 いつの間にか、駅前だらけ／2008年10月／13位  
京阪電車中之島線開業に沸く沿線の人々の喜びの声と工事秘話をお届け。

4 島の水辺は年中アツい／2008年11月／21位  
水辺の魅力をあこれ紹介。11月なのに「アツい」という気合の入りの号。

めくって楽しい号。第14号まで続く特集ページ数が多い仕様。適度なゆとりもあって、レイアウトに変化を出せました。(山)

5 ザ・中之島ブルース／2008年12月／70位  
中之島界隈の夜の店を紹介するので、表紙は内山田洋とクールファイブ。

6 その時、中之島が動いた／2009年1月号／42位  
伝説の銅像インタビュー。タイトルはあの番組から拝借。いや、オマージュ。

7 書を持って島へ出よ／2009年2月号／47位  
中之島が登場する本をノンジャンルで紹介。リアル書店でのフェアも開催。

8 イッツ・ア・中之島デザイン／2009年3月号／85位  
ファッションアイテムから企業ロゴまで、グッドデザインは溢れていた。

9 中之島へ、いらっしゃ〜い!／2009年4月号／92位  
中之島にゆかりの人々をコンシェルジュに、さまざまなツアーで街をめぐる。

10 シマに花を咲かせましょう／2009年5月号／53位  
桜にバラ、花に彩られた物語。西日本の洋花文化は中之島から広がった。

11 「もっと」橋の話をしよう!／2009年6月号／23位  
人気連載企画からのスピノフ特集。ぼも企画全面執筆による貴重な一冊。

人・橋・川を一気に表現しようと試みたが、欄干が一本線……。でもこれでよかった。表紙における画とは何かを考え直した次第。(奈)

12 学園天国／2009年7月号／81位  
当時多かった大学サテライト。まさか後に自分たちで大学を名乗るとは…。

13 なかのしまカンタービレ!／2009年8月号／92位  
「大阪クラシック」開催を前に、クラシック音楽とのつながりを再確認。

14 ダイビル・マニア!／2009年9月号／8位  
閉館直後の旧ダイビル。3年後見事に生まれ変わる姿は想像できなかった。

15 シマは絵になる!／2009年10月号／85位  
絵画や写真表現において、中之島を舞台に用いる人は昔から多かった。

16 市場で逢いましょう／2009年11月号／92位  
中之島公園で開催された「大阪マルシェほんまもん」をフィーチャー。

17 もっと人生に中央公会堂を／2009年12月号／47位  
大阪市中央公会堂は来年100周年。その時には第2弾をやりたいところ。

18 中之島に住んでみる?／2010年1月号／77位  
増えつつあった中之島住民。今やもっと増えて多様になっているはず。

19 落語を一席、いかがでしょう／2010年2月号／70位  
上方落語の舞台を紹介。まさか自分たちで落語会を開催することになるとは。

20 大阪万博メモリーズ／2010年3月号／11位  
1970年の大阪万博から40年。その面影は街にたくさん残されていた。

21 大阪の幕末／2010年4月号／85位  
大河ドラマにちなんだ特集。幕末の大坂の世相を高島幸次先生が詳述。

22 味わえミュージアム／2010年5月号／85位  
中之島のミュージアムの見方や特徴を、鑑賞者の視点からガイド。

23 奈良から見た大阪／2010年6月号／85位  
平城遷都1300年記念。大阪の人は奈良に足を向けて寝られない!?

24 天神祭の歩き方／2010年7月号／37位  
全貌を理解するのが難しい天神祭を、もっと楽しめるように考えた。

25 水辺にてカンパイ!／2010年8月号／57位  
実はビールとご縁の深い中之島。ビールが美味しく飲める新店の紹介と共に。



# 全投票結果(総合人気ランキング順位)

関係者がふり返る思い出コメント付き  
山一デザイナー/山崎慎太郎 奈イイラストレーター/奈路道程  
編集部/若ノ若狭健作 松ノ松本創 大ノ大迫力

- 76 町内会入ってる? / 2014年11月号 / 26位  
新しい住民が増え、町内会の会員も増えつつあるのは喜ばしいニュース。
- 77 生きた建築へ行きたい / 2014年12月号 / 13位  
イケフェス特集第一弾。この時はイベントの様子レポートだった。
- 78 神さんと人 / 2015年1月号 / 65位  
時代によってあり方が変わるという視点でのちょっとややこしい神社特集。
- 79 大阪市立科学館の25年 / 2015年2月号 / 70位  
山あり谷ありを実感させる大阪市立科学館の四半世紀の歩み。
- 80 ふるさとの話をしよう / 2015年3月号 / 44位  
キタタローとは関係なく、中之島周辺の県事務所やショップの最新情報。
- 81 中之島を描く / 2015年4月号 / 4位  
絵画を取り上げた誌面と連動し、奈路道程さん、河田潤一さんの展示会も。
- 82 中之島図書館はすごかった / 2015年5月号 / 23位  
念願の正面玄関からの入場が叶った中之島図書館のすごさを改めて体感。
- 83 夢の中之島 / 2015年6月号 / 53位  
夢=実現しなかった計画やコンペ案を取り上げるという大胆不敵な企画。
- 特に有用性はなくても面白ければええやんという、フリーの地域メディアだからその肩の力が抜けた感じは忘れずにいたい。(大)
- 84 土佐堀ストリートジャーナル / 2015年7月号 / 37位  
ここ数年で一気に風景が変わった土佐堀通沿いのニュースをレポート。
- 85 中之島名所番付2015 / 2015年8月号 / 8位  
橋・風景・ポストなどなど、月刊島民流の番付を作って勝手にランキング。
- 86 豪商、どうでしょう / 2015年9月号 / 12位  
よくよく考えると豪商って曖昧な名称だなと思ったところから取材開始。
- 87 生きた建築を見たい理由 / 2015年10月号 / 6位  
イケフェス特集第二弾。イベントの内容や期待を関係者に語ってもらった。
- 88 島民が通う店 / 2015年11月号 / 47位  
中之島界隈の店を、実際に通っている人が書くというストレートな特集。
- 89 大阪・テレビのはじまり / 2015年12月号 / 19位  
かつて存在したテレビ局・大阪テレビの、革新的で面白すぎる伝説の数々。
- 90 山崎豊子をおるく / 2016年1月号 / 1位  
言わずと知れた大作家。人生においても作品でも船場〜中之島とは縁深い。
- 91 鳥瞰図の誘惑 / 2016年2月号 / 21位  
鳥瞰図絵師・青山大介さんの新作をきっかけに、鳥瞰図の歴史を総まとめ。
- 92 とどろきの五代友厚 / 2016年3月号 / 2位  
今も人気冷めやらない、大阪の恩人・五代友厚の多大な功績を総覧。
- 93 大阪城の江戸時代 / 2016年4月号 / 35位  
江戸時代の大阪城は徳川幕府のもの。そこから見えてくる歴史もある。
- 94 新中之島 / 2016年5月号 / 29位  
最新、新装、新刊、中之島の新しいもんばかりを集めてみました。
- 95 すごいぞ! 京阪電車2016 / 2016年6月号 / 3位  
黒田一樹さんのマニアックな解説が冴え渡った、京阪電車の徹底分析。
- 96 中之島インバウンド / 2016年7月号 / 32位  
外国人観光客は中之島で何をしているのか? どんな変化を与えたのか?
- 97 中之島ミステリー研究会 / 2016年8月号 / 7位  
ネタバレをせずにミステリーを紹介するのは意外に難しいことを知る。
- 98 10周年! 天満天神繁昌亭 / 2016年9月号 / 29位  
毎日落語をやる定席がどれだけ大変なものなのか、その苦勞が偲ばれる。
- 99 「生きた建築」の見方 / 2016年10月号 / 5位  
イケフェス特集第三弾。公開建物だけで近代建築史を解説する無茶企画も。
- 100 中之島100の入口 / 2016年11月号 / 参考  
100号にちなんで、中之島を知る入口になり得る100のキーワード事典に。
- 101 中之島バンクス、再始動 / 2016年12月号  
昨年の秋に全面リニューアルを遂げた中之島バンクスに密着。

■月刊島民のバックナンバーはナカシマ大学ウェブサイトをご覧ください!

- 51 昭和のあの日 / 2012年10月号 / 65位  
単なる昔の写真紹介ではなく、昭和という近過去にこだわった。
- 52 中之島フェスティバルタワーへ行こう / 2012年11月号 / 35位  
建築的な見どころやショップなど、新しいランドマークを徹底解剖。
- 53 中之島キネマ通り / 2012年12月号 / 57位  
映画『黄金を抱いて翔べ』公開を記念。高村薫さんのロングインタビューも。
- 54 蔵屋敷の「常識」 / 2013年1月号 / 42位  
名前は知っているけれど実際のところはよく知らない蔵屋敷の話。
- 55 歌ってください、中之島で / 2013年2月号 / 18位  
歌が彩る水辺の風景。あ〜あ〜、ここは中之島、歌謡曲特集よ〜♪
- 水辺に似合う本や音楽を掘り起こした特集が思い出深い。この号では輪島裕介さんの昭和歌謡論の傑作「中之島教義主義」が誕生。(松)
- 56 キャンバスがあった頃 / 2013年3月号 / 53位  
久坂部羊さんの連載が書籍化。その舞台となった阪大が中之島にあった頃。
- 57 マキメと学ぶ近代建築 / 2013年4月号 / 17位  
万城目学さんと高岡伸一さんの建築談義をそのまま誌面にするという荒唐。
- 58 グッドモーニング中之島 / 2013年5月号 / 63位  
中之島の水辺は、朝が一番気持ちよく過ごせるのではないかといつも思う。
- 59 川の話と生きものたち / 2013年6月号 / 23位  
途中で名前が変わるが、川の境目はどこなのかという素朴な疑問がきっかけ。
- 60 天神祭的コミュニケーション / 2013年7月号 / 57位  
天神祭の本質はコミュニケーションにあるという大胆な考察を試みた。
- 61 中之島古地図パラダイス / 2013年8月号 / 13位  
各時代の古地図をじっくり見ながら、本渡章さんが中之島を歩く。
- 62 おかえり! ダイビル / 2013年9月号 / 32位  
再オープンを果たしたダイビル。そこまでやるかの復元工事に驚愕と賞賛。
- 63 オダサク散策 / 2013年10月号 / 28位  
織田作之助作品ゆかりの場所と、中之島図書館所蔵の貴重資料を公開。
- 64 葉の道修町の400年 / 2013年11月号 / 68位  
なぜ道修町は葉の街に? 神社や祭りの歴史を整理しつつ、最近の傾向も。
- 65 御堂筋を歩け! / 2013年12月号 / 44位  
共同溝工事や高さ制限、イベントなどニュースの多かった御堂筋の特集。
- 66 海に向こうを目指して / 2014年1月号 / 70位  
造船をキーワードにする、川と海を結ぶ東西軸とその近さが見えてくる。
- 67 浪花百景大研究 / 2014年2月号 / 26位  
細かく見れば見るほど面白い、幕末の大ヒット錦絵シリーズ。
- 68 中之島に昼がきた! / 2014年3月号 / 65位  
オフィスピルのカフェテリア(食堂)は、知られざる進化を遂げていた。
- 69 本日は、お日柄も良く / 2014年4月号 / 57位  
中之島に増えたウェディングスポットから、最新ブライダル事情を研究。
- 70 バラが咲いた / 2014年5月号 / 77位  
バラ園をマップで図解。時代が変わればバラも変わるとは知らなかった。
- 71 潜入! 中之島24時 / 2014年6月号 / 57位  
オフィス街で働く人は昼間だけではないはず、という思いつきが形に。
- 72 手塚治虫が歩いた道 / 2014年7月号 / 10位  
在野の手塚研究者によって、巨匠の知られざる中之島での足跡が明らかに。
- 73 屋上を向いて歩こう / 2014年8月号 / 57位  
ビルの屋上と言えばビアガーデンというのは昔の話。今やもっと多彩に。
- 衝撃の屋上特集。お稲荷さんウォッチングとか津波避難ビルの紹介とか、ふざけているのか真面目なのかわからない良企画。(若)
- 74 講談 大坂の陣 / 2014年9月号 / 19位  
大坂の陣400年にちなみ、講談師・旭堂南海さんが名場面を書き下ろし。
- 75 島民とウイスキー / 2014年10月号 / 39位  
大ブームとなったウイスキー。調べてみると、島民との関係もちらちらと。



ナカノシマ大学  
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の  
懷徳堂  
プロジェクト

街の面白さを  
伝える方法

◎今月の授業

2017年2月講座

# 【地元】

## 「ローカルメディアの大研究」

トーク／慈憲一 (naddist)

若狭健作 (『南部再生』編集人)

大迫力 (『月刊島民』編集・発行人)



うつみ・けんいち  
webサイト「ナダタマ」などさまざまな媒体を通してマニアックな灘情報を発信しつつ、摩耶山での「リュックサックマーケット」や「東神戸マラソン」など、灘区を満喫できる多彩なイベントやツアーを開催。

# ナダ 灘



地元の楽しさを伝えるメディアとは何か？  
神戸市灘区と尼崎の  
「おもしろい」を発信する達人と共に、  
中之島にて月刊島民プレスと語り合う。

これまで100号以上にわたり、中之島という街の面白さを伝えてきた月刊島民。今月の特集では、読者による人気投票の結果を分析したが、それをきっかけに、他の街の人たちとも地元の楽しみ方を伝える方法について語り合ってみよう。

お招きするのは「naddist」なる肩書きを持つ神戸市灘区のスベシャリスト・慈憲一さん。もう一人は、ローカルフリーマガジンの雄として知られる尼崎の『南部再生』編集人である若狭健作さん。どちらも街の魅力をフリーマガジンや、あるいはセンス抜群のイベントという形にして発信しまくっている。

ローカルなメディアであることの面白さや難しさはどのあたりにあるのか。現在進行形で発信を続ける人だからこそその本音を語り合う。あなたの住む街の魅力に気づくヒントにもなるはず！



# ア マ 尼

わかさ・けんさく  
尼崎南部のフリーマガジン  
『南部再生』編集人。その他、「メイドインアマガサキコンベ」や「尼崎一家の旅」といった地元紹介コンテンツの企画も。エフエムあまがさき「8時だヨ！神さま仏さま」プロデューサー。



会場は重要文化財の  
大阪府立中之島図書館。  
各地のフリーマガジンや  
MAP也大集合します！

# 中之島



参加者全員にプレゼント！  
アクアライナー乗船割引券

月刊島民100号記念企画として、大阪水上バスより、アクアライナー大阪城・中之島めぐりコースの2割引チケットを進呈します。

募集要項	<p>「ローカルメディアの大研究」</p> <p>日時／2017年2月16日(木)</p> <p>7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～)</p> <p>会場／大阪府立中之島図書館 本館3階 多目的スペース2</p> <p>受講料／1,500円(プレゼント付き)</p> <p>定員／80名</p> <p>主催／ナカノシマ大学事務局</p>	<p>お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。</p> <p>〒530-0004 大阪府北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学2月講座」受付係 FAX.06-4799-1341</p> <p>※先着順で受付後、1月20日前後より受講票をお送りします。 ※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。 ※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。</p>
------	---	---

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは  
こちら！→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340  
(ナカノシマ大学事務局)

天満天神繁昌亭  
毎月25日のお楽しみ

# 天神寄席 噺のおとこ

## 二月席のご案内

申込受付中

●お題「米澤彦八」

# 「米澤彦八トリビュート」

落語の祖と呼ばれる米澤彦八。江戸時代、生國魂神社の境内で演じていた「仕方物真似（しかたものまね）」が大人気を博し、それが後に落語へとつながっていく。その彦八の生涯を描いた小説『天下一の軽口男』を上梓した小説家の木下昌輝さんが今回のゲスト。謎に包まれた部分も多い彦八の人物像を、木下さんほどのように捉えたのか。彦八作とされる落語と一緒に楽しみたい！

落語／露の眞「寿限無」

笑福亭生喬「姉の八足」

桂九雀「味噌蔵」

桂春之輔「有馬小便」

林家染二「景清」

鼎談／地口・軽口・語呂合せ

ゲスト／木下昌輝（小説家）

高島幸次（大阪大学招聘教授）

桂春之輔

ナカノシマ大学でお得な前売り券を発売中！

開催日／2月25日（土）

開演時間／6:00PM（開場5:30PM）／受付開始5:15PM（

受講料／2300円（通常・前売2500円／当日3000円）

お支払い方法／当日（5:15PM）、繁昌亭入口付近の「ナカノシマ大学受付」にてお支払いください。

※予定枚数に達し次第、予約受付を終了します。※ナカノシマ大学では当日券の販売は致しません。

●お申し込み方法、お問い合わせ先はP10を参照してください。

◎お断り 天神寄席 月席の前売券予約の受付は予定枚数に達したため終了しました。



桂春之輔



桂九雀



木下昌輝

## 天神寄席のてばれ噺

高島幸次

御来揚御礼

毎月25日の天神寄席を、「テーマ落語5席+ゲストの鼎談」のスタイルに変更し、本誌での告知を始めてから、2年7ヶ月が経ちました。

おかげさまでリビーターも増え、中には天神寄席の時だけ繁昌亭に行くというありがたいファンも生まれています。感謝感激雨霰です。この言い回しは、日露戦争のころに日本軍の勇猛ぶりを表現した「乱射乱撃

雨霰」のもじりでした。

それはさておき、天神寄席ファンのお一人が、「こないだ初めて繁昌亭の昼席に行ったんやけど、全体のテーマがよう解らんかったわ」と不満を漏らされました。私は「いえいえ、本来の落語会にテーマはないのです。ネタの趣向が似ることは『ネタがつく』というて避けてます」とお話ししたのですが…。

## ネタがつく会、つかぬ会。

仮に一席目が旅の噺なら、二席目以降は旅を避け、三席目からは旅と酒の噺は演らないという具合です。ですから、トリ（最後）の落語家さんは大変。それまでに演じられた落語とかぶらないネタを選ばねばならないのですから。

その意味では、天神寄席の方が異例なのです。毎回、先にゲストとテーマを決めてから、それにちなんだ落語を選んでいきます。1月席のネタは、鉄道3・俵1・船1ですから、みごとに交通ネタがついていきます。それでも、雨霰の拍手が巻き起こりますように。

たかしまこうじ  
大阪大学招聘教授 大阪天満宮文化研究所研究員、NPO 上方落語支援の会理事など。



帰ってきた! 関西人のための

## 「新潟のええところ・うまいもんゼミナール」

第4回「上越・糸魚川の地酒がたまらない理由」講師/葉石かおり

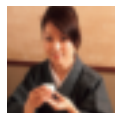
フォッサマグナが通る場所は、  
 山海の幸豊富な地酒の楽園だった。  
 絶好調の新潟ゼミ第4回の講師は、  
 酒ジャーナリストでエッセイストの、  
 葉石かおりさん。ゼミ登壇3回目とな  
 る葉石さんは、全国各地を旅し、知ら  
 れざる銘酒を発掘して広めるだけにな  
 く、日本酒の「調味料」としての偉大  
 さや健康への効用なども提案する伝道

師でもあります。  
 今回、彼女が目をつけたのは新潟県  
 の南部に位置する上越・糸魚川地域の  
 銘酒。伝統を土台に、厳選された原料  
 と創意工夫に満ちた酒造りで個性豊か  
 な酒を生み出してきました。北アルプ  
 スや日本百名山の妙高山が目前に迫  
 る豪雪地帯ですが、その分良質な軟水  
 が豊富にあり、酒造りには最適な環境

です。日本海にも近く、海・山両方の  
 幸に恵まれ、うまいもん好きにとつて  
 はまさに楽園のようなエリア。  
 関西からの玄関口でもあるこの地域  
 には、どんな地酒と料理が待っている  
 のでしょうか。雪をものともせず、4  
 つの歳元や名所とうまいもんめぐりを  
 堪能した葉石さんの最新現地情報、お  
 楽しみに!



右/上越・糸魚川自慢の銘酒 左上/地酒と抜群の相性なのが「ぐびき和牛」ステーキ 左下/日本最古か? 明治44年(1911)誕生の現役映画館[高田世界館]



はいし・かおり

全国を飛び回り酒蔵や酒場の取材、日本酒のセミナー・講演をこなす。著書に『隠れ酒がうまい』(講談社)、『カッコイイ女は「おひとりさま」上手』(PHP研究所)など。11月末発売の最新刊『日本酒マニアックBOOK』(シンコーミュージック)は、このジャンルの第1位に!

## ◎今シーズンの会場は

梅田・大阪富国生命ビル4Fの多目的スペース[アサヒ ラボ・ガーデン]。食やお酒、スポーツ、子育て等のイベントを頻繁に開催。フリースペースでは休憩や友人との待ち合わせに、読書にと使える憩いの場です。授乳室も完備。食と健康にちなんだ書籍もあります。

11:00AM~8:00PM 日曜休(祝日は営業) ※年末年始休

<http://www.asahigroup-holdings.com/research/labgarden/index.psp.html>



ラスト1回までお見逃しなく! ※この応募受付は21(水)から。

第5回 3.1(水) 北出恭子(温泉ソムリエ・TVタレント)+遠間和広(温泉ソムリエ家元)

## 「上越・糸魚川の地酒がたまらない理由」

日時/2017年2月13日(月) ※当初の日程から変更  
 6:30PM~8:00PM(開場6:00PM)

会場/アサヒ ラボ・ガーデン(大阪富国生命ビル4F)  
 受講料/無料(新潟県のおみやげ付き) 定員/50名  
 主催/新潟県観光協会大阪観光センター  
 共催/上越・糸魚川・妙高観光連携実行委員会  
 協力/アサヒ ラボ・ガーデン  
 運営/新潟のええところ・うまいもんゼミナール事務局

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ・fax、もしくはナカノシマ大学HP(<http://nakanoshima-univ.com/>)内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ・faxでお申し込みの方で複数名の(応募される方も含めて4名まで可能)ご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記し、講座名と開催日を必ずお書き添えください。〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4F「関西にいかたゼミ」係 tel.06-4799-1340(平日10時~18時) fax.06-4799-1341 ※締切=1.25(水)必着。応募者多数の場合は抽選。当選の方にのみ、締切から5日以内に受講票を発送します。

## 新潟県へのアクセス

- JRの場合(大阪駅から)  
 特急サンダーバード→北陸新幹線  
 (金沢駅乗換、糸魚川駅・上越妙高駅)  
 約3時間50分  
 東海道・上越新幹線(東京駅乗換、新潟駅)  
 約4時間20分
- 航空機の場合(大阪伊丹空港→新潟空港)  
 約1時間05分(1日10往復)
- クルマの場合(吹田IC→新潟中央IC)  
 名神高速道→北陸自動車道 約6時間30分

クルーが毎月綴ります！

## 大阪水上バスの クルーズ歳時記

### 今月のオススメ 尾道グルメクルーズ

1月は観光船にとっては寂しい月。閑散期と言うとそれまでですが、寒い時に水辺に近づこうなんて奇妙な方はやはり少ないようです。



大阪水上バス  
企画宣伝部  
岸田俊徳さん

大阪水上バスのレストラン船「ひまわり」は、船内でゆったりお食事ができることもあり、季節を問わず大川を運航していたのですが、この船さえもここにいません。え、まさか引退？なんて声も聞こえそうですが、そんなことはありません。



実は出張中なのです。映画のロケ地としても有名な広島県尾道を舞台にしたグルメクルーズに就航中。1日3便あり、ランチ、ティー、ディナーとお好みのシチュエーションを選べます。北浜にある「ルボンドシエル」の協力の元、地元尾道の人気レストランが地元の食材を使ったお食事を味わえるのも魅力的。この時期に尾道に行かれる方は、ぜひお試しください。期間限定の特別クルーズですよ！

ところで、この「ひまわり」をどうやって尾道まで運んだかわかりますか？なんと小さい船に引っ張られて、瀬戸内海を渡っていったのです。

期間／12月23日(金・祝)～1月16日(月)  
料金・時間／  
ランチ6,000円(税込)11:45AM～(約90分)  
ティー4,500円(税込)2:50PM～(約90分)  
ディナー10,000円(税込)5:30PM～(約120分)

ひまわり 尾道グルメクルーズ

☎0570-07-5551(ナビダイヤル)  
(大阪水上バス・ひまわり予約センター)



大阪水上バス  
<http://suijo-bus.osaka/>

路地奥歩きが楽しい福島の  
とある路地、大阪を中心に活  
躍するイラストレーターの小  
西慎一郎さんがオープンした  
「STUDIO COOTE」。手作り

## 福島の路地奥にまた一つ 多彩に楽しい小空間



ンダーやカップ＆ソーサーを  
インターネットで販売してい  
たのですが、手に取って見て  
もらいたかった。事務所の廊  
下を使って、『廊下画廊』なん

感あふれるスペースには、  
小西さんの多彩な活動そのま  
まに、カフェ、ギャラリー、雑貨、  
絵画教室などたくさん  
の要素が詰まっている。  
「動物イラストのカレ

## トウミン月報

2017年1月1日発行

ていうイベントもやったりしたのですが、やっぱり拠点となる場所がほしくて。元は自宅だった場所をリノベーションしました

グッズ販売や作品の展示だけでなく、絵本作家としても人気の小西さんの著作も買える。また、貸しギャラリーやイベントスペースとしてもどんどん発信を増やしていきたいとのこと。1月は絵画展覧会、2月はクラフト展、3月はジャズのイベントなどが目白押し。どんな目的で訪れても楽しい、出会いの多い空間になりました。  
(大迫力・本誌)



小西さんの絵本最新作『かくれんぼ』も販売中。ホットサンド(500円)は3種類。キーマカレーチーズなど凝ったものも。

### STUDIO COOTE

カフェ、ギャラリー、雑貨販売が一体になった空間。土曜日には小西さん直接指導による画塾も開催。「版画でもなんでも描きたいものを教えますよ」というのがすごい。イベント開催なども気軽に相談を。☎06-4981-9061 ギャラリー12:00PM～7:00PM カフェ11:00AM～7:00PM(日・祝～5:00PM) 月曜日



## 「あさが来た」人気冷めず 大同生命特別展にガイド登場

大坂の豪商に嫁いだ女性の生涯を描いた、2015年9月から放送された連続テレビ小説「あさが来た」。ヒロインのモデル・広岡浅子は大同生命の創業者の一人でもあり、肥後橋にある大阪本社では浅子の実像や時代背景を紹介する特別展示を開催している。この1年で約9万人もの人が訪れたそうだ。

放送終了後も浅子や豪商について知りたいというファンが絶えず、一般公開期間を来年3月末まで延長。加えて、毎週月曜には解説員による約1時間のガイドツアーを無料で開催。ひとりで見て回るよりも、わかりやすく理解しやすいと評判だ。史料研究の裏話といった、解説員ならではのエピソードも聞けるかもしれない。(江口由夏・本誌)

特別展示「大同生命の源流  
加島屋と広岡浅子」  
会場／大同生命大阪本社 2階メモリアルホール  
期間／2017年3月31日(金)まで 入場無料  
開館時間／火曜～金曜10:00AM～5:00PM  
休館日／土・日・祝日  
◎ガイドツアーは祝日をのぞく毎週月曜に開催(要事前予約)  
予約・問い合わせ☎06-6447-6263  
(平日10:00AM～5:00PM)



## 「野菜ソムリエとして、野菜に向き合う意識が変わりましたね」

私が夜の開店前に取りかかることは、その日に届いた食材を見渡しながら、店舗ごとに異なる「本日のおすすめ」を作ることで。以前は若者が多く来店する梅田の店舗にいたのですが、やはりオフィス街の中の島は勝手が違いますね。おでんや煮物、昨年11月から始めた日替わりおばんざいなど、お客様の反応が良かったものを振り返りながら、毎日メニューを組み立てていきます。

毎日の魚介類は全国各地の港から直送されてきて、現地ではかお目にかかれなような珍しい魚も届きます。見慣れない魚を見て目の色を変えるお客様が多いのも、中之島店の特徴かもしれません。「何が届くかわからない」という楽しみは、いかにお客様に美味しく食べてもらうかという頭の使いどころ、腕の見せどころでもあります。

野菜類も、届くのは全国の契約農場から。現地まで足を運び、スタッフがその素材の良さを確かめた有機野菜ばかりです。新しく「野菜ソムリエ」の資格を取



得してから、野菜に向き合う意識が大きく変わりましたね。この資格は、野菜

や果物が持つ個性を理解し、それをほかに人に伝えることが目的とされています。



明日から真似したくなる野菜メニューを考案する

### 「旬魚旬菜 遊遊」店長 川村幸平さん

入ってくる旬の野菜は美味しいところばかりなので、農場の方がおっしゃるとおり、実はそのままの「生」が一番美味しいケースも（笑）。最近は私たちが、農場の方に「こんな野菜は作れませんか」という逆提案をさせてもらうこともあります。

レシピを試行錯誤する中で、これまで失敗もありました。たとえば、珍しいイギリスの天ぷら。とてもアクが強い野菜なので、他の野菜と同じ工程で揚げてしまうと、食べるときに喉がピリピリして痛くなってしまいます。よくアクを抜いて、いったん煮たものを揚げるひと手間が大切なですね。

私たちがならば、メニューを通して野菜の美味しい食べ方をお客様に体感してもらうことが大事。そのために、見たことがなかったり、なじみが薄い野菜にはより真剣に向き合います。味わいや彩り、栄養の勉強など研究の毎日です。それでも

は「工夫手を加えます。冬は鍋や煮物がメジャーですが、うちはサラダにしてみたり。野菜ソムリエとしては、その美味しさに驚いて「こんな食べ方があったのか」とお客様に見見してもらったことが、なによりの喜びです。



祝祭へようこそ。



<http://festivalplaza.jp/>  
提供 / 株式会社 朝日ビルディング

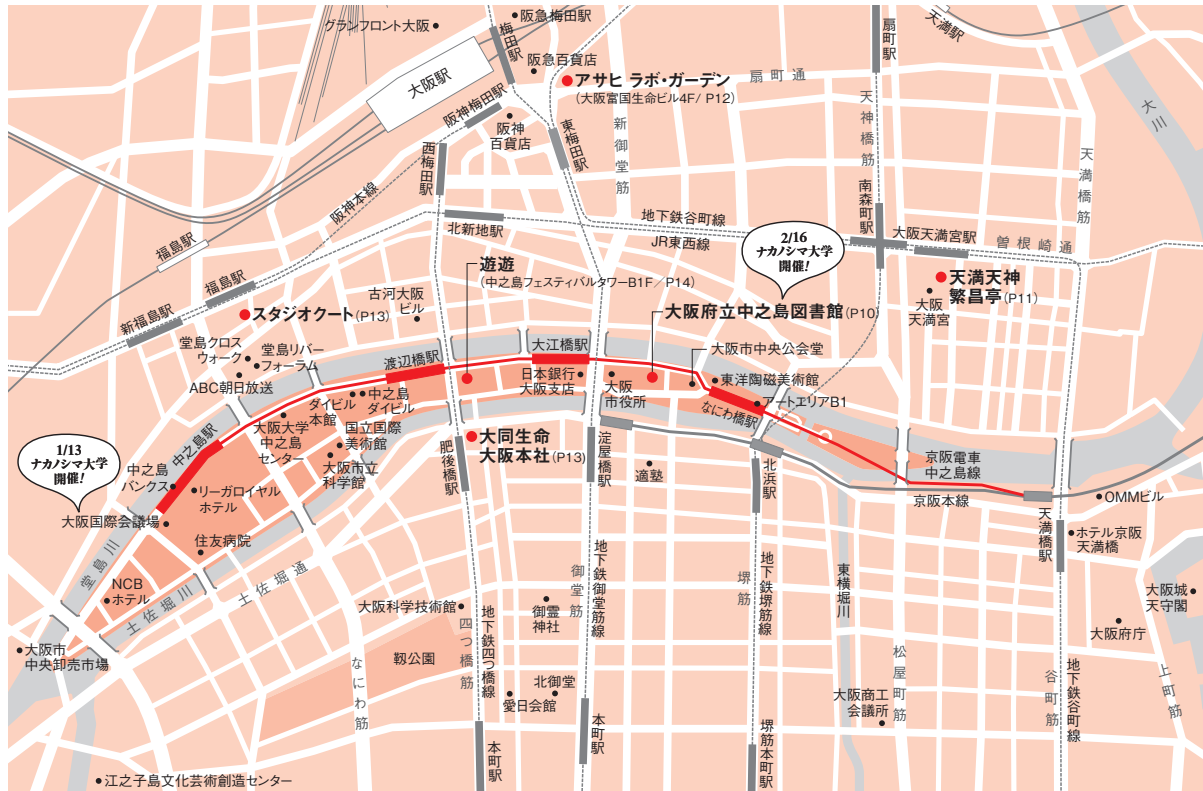
#### Information from 旬魚旬菜 遊遊 [中之島フェスティバルタワーB1階]

野菜ソムリエだけでなく利酒師もいる、和食を中心とした居酒屋。大人数なら、この冬は「あんこうとアサリの海鮮たっぷりチゲ鍋」を中心に、飲み放題付宴会コース(3,980円)がオススメ。おばんざい4点盛りやローストビーフ寿司など、脇を固める皿もバリエーション豊か。親子丼やチキン南蛮などがいただけるランチは、働く島民たちの胃袋を満たすボリュームがすごい。☎06-6226-1711 11:00AM~10:00PM(ランチメニューのオーダーは2:30PMまで)



# 大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、  
みんな「島民」です！



## 『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪 天満橋/ホテル京阪 京橋 グランデ
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店]旭屋書店 梅田地下街店/紀伊國屋書店 梅田本店/グランフロント大阪店・本町店/ジュンク堂書店 大阪本店/梅田ヒルトンプラザ店・天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/文教堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など]アイスポット/朝日カルチャーセンター/味の素 ライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立科学館/大阪市立総合生涯学習センター/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪梅田サテライト/川の駅はちけんや/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪シティキャンパス/国立国際美術館/CITYNAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/少彦名神社/中央電気倶楽部/適塾/ドーチカ/ホテルNCB/メビック扇町/立命館大阪オフィス/龍谷大学大阪梅田キャンパス [店舗・医院など]アンドール 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前製料理 志津可/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/エルマーズグリーン コーヒーカウンター/大西洋服店/OOO(オーオー)/カセツ/喫茶カンタロ/喫茶SAWA/グランスイート中之島/タイピカ/黒門さかえ/コムカフェ/The Court/サトウ花店 中之島本店/ザ・メロディ/シアルベストコーヒー新聞ビル店/じろう亭/Girond's JR/心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/セブイレブ大阪証券取引所店/タイピカスタイル/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャーノ/パストラーレ/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/FOLK/プレイムハウス/ミニジロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店]旭屋書店 なんばCITY店/紀伊國屋書店 京橋店/ジュンク堂書店 難波店/福島書店/柳々堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など]大阪科学技術館/大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立中央図書館/大阪府立江之子島文化芸術創造センター/川口基督教教会 [店舗・医院など]あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパール/大阪シティ信用金庫 江戸堀支店/御舟かもめ/カルチャーカフェ上方/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワナ/バルビコ/ホステル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学堂書店 Books 呼文堂/水嶋書房 ぐずはモール店/大阪狭山市立図書館/大阪府立難波市民学習センター/大阪大学企画部広報・社会学連携事務室/大阪大学 21世紀懐徳堂/大阪大学本部/大阪府立中央図書館/摂南大学 地域連携センター/野村呼文堂/郵政考古学会/ゆったりんこ/連携者 児童子
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/恵文社 一乗寺店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/川のほとりの美術館/納屋工房/タバーン・シンパソン/百練/奈良県立図書館情報館/龍谷ミュージアム
- 東京 往来堂書店(千駄木)/BOOKSルー(吉祥寺)/B&B(下北沢)/隣町珈琲(原宿中庭)/ONLY FREE PAPER(東小金井)/かもめブックス(新宿)

## ◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

## ◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

## 次号予告 堂島より愛をコメて。

江戸時代に米市場があったというのは誰もが知る堂島の歴史。  
ではどんな人が働いていたのか? なぜそれほど米が重要だったのか?

●『月刊島民』vol.103は2017年2月1日発行です!

編集・発行人/大迫力(編集集団140B)  
編集・発行/月刊島民プレス  
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)  
松本 創 江口由夏(編集集団140B)  
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階  
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341  
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)  
デザイン/山崎慎太郎  
表紙イラスト/奈路道程  
印刷/佐川印刷株式会社

月刊島民中之島 102号 2017年1月1日発行 編集・発行人／大迫力(140B) 編集・発行／月刊島民プレス 〒5300004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 定価0円 Printed in Japan



きょうは、どこいこ、京阪で。

in KYOTO, on KEIHAN.

